様式(細則5-2)

令和7年　2月　1日

浜田市議会議長　様

議員名　村武　まゆみ

調 査 研 究 活 動 報 告 書

下記のとおり調査研究のため視察を行ったので報告します。

記

1．視察先　木更津市、常陸大宮市

2．視察事項　有機農業、オーガニック給食について

3．視察の目的（市政との関連など）
浜田市で取組んでいる有機農業の先進的な取組みと有機米や有機野菜を使った学校給食の推進の仕方を視察する。

4．期間（移動日を含む）

令和　7年　1月　16日（木）　～　令和　7年　1月　18日（土）

5．経費　58,640円

（経費内訳　資料代　円、旅費　58,640円）

6．視察のポイント・議員活動や市政への反映など
木更津市は農業だけでなくオーガニックのまちとして他分野の取組みの実施。有機米の促進のため給食に利用しており、有機米の実績も年々上昇しており、給食に提供日数も増加している。
常陸大宮市の市長が子ども達にオーガニック給食を食べてもらいたいという熱い思いでスタートした。
有機米や有機野菜の生産を増やすための進め方など両市を参考にして、浜

浜田市議会 受付 7.2.-1

田市の有機農業、オーガニック給食が推進されるよう担当課に話していきたい。

7．視察内容
（詳細は別紙のとおり）

視察内容

1. 木更津市

「オーガニックなまちづくり」と「きさらず地域循環共生圏」の創造に向けた取組み

人口 137,000 人。アクセスの向上する中で首都圏に近く「都心に一番近い田舎」。東京湾最大の自然干潟「磐州干潟」、内陸部では農産物にも恵まれている。SDGs を進める理由を深く感じ、木更津市では 2016 年に渡辺市長が「オーガニックなまちづくり」という視点を掲げる。そこから「地域経済の活性化」と「若者の獲得」の戦略として「木更津オーガニックシティ」がスタート。「循環」「共生」「自立」を未来へのキーワードとし、「木更津市　人と自然が調和した持続可能なまちづくりの推進に関する条例（通称：オーガニックなまちづくり条例）を 2016 年 12 月に施行。

【オーガニック】持続可能な未来を創るため、地域、社会、環境等に配慮し、主体的に行動しようという考え方。

【オーガニックなまちづくり】地域社会を構成する多様な主体が一体となり、本市を、人と自然が調和した持続可能なまちとして、次世代に継承しようとする取組。

第１期アクションプランから始まり、現在第３期実施中。

「木更津市オーガニックシティプロジェクト推進協議会」の設立。「KISARAZU ORGANIC CITY FESTIIVAL」の開催、「オーガニックアクションプラン宣言認定」などを実施。

有機農業の推進として、市内公立小中学校（全 30 校）の学校給食に提供。週４回、年間 153 日の米飯給食で、１日あたり 830 キロ必要。

年	栽培面積	出荷量	達成率	提供日数	生産者
2019 年	1,8ha	3t	2,1%	3 日	５名
2024 年	33ha	128,7t	88,1%	134 日	21 名

と着実に上昇している。

有機米を使うことで、市から慣行米との差額を補助している。（保護者負担はなし）

有害鳥獣対策として、食肉処理場を整備し、ジビエ加工品の製造を実施。2021 年に「国産ジビエ認証制度」に登録。都内飲食店や販売店へ提供。

循環型社会に向け、資源循環の促進として、ペットボトルと家庭用廃食油のリサイクルを実施。

脱炭素に向けた公共施設への再生可能エネルギーの導入。小中学校への太陽光発電設備設置。

2. 常陸大宮市

人口約 37000 人。農家戸数約 3 千戸。主要な作物は水稲、ナス、ネギ、切り枝。

有機農業に取組む理由　～なぜ今オーガニックなのか～

市長の強い思いで、これからの日本を担う子どもたちの健康を考えた時、学校給食において、科学的に合成された農薬や肥料を使用しないで生産した、有機農産物を食べることをきっかけに、保護者の食育への意識を高め、家庭においても有機農産物を食事に取り入れていけるような環境作りが必要と考え、有機農業を推進することとなった。

R 元年度　有機農家（株）レインボーフーチャーが三美地区に参入

R２年度　現鈴木市長就任

R３年度　有機農家（株）カモスフィールドが三美地区に参入
　　茨城県が三美地区を有機農業モデル団地に位置付ける
　　常陸大宮市有機農業推進計画の策定

R４年度　有機農業の推進を事業化し、本格的に有機農業の推進を開始
　　２地区において有機農業の取組み開始
　　学校給食で有機農産物（野菜）の使用を開始

R５年度　有機 JAS 取得に向けた水稲栽培を開始　2 戸
　　オーガニックビレッジ宣言 11/5
　　学校給食に有機栽培により生産したお米の使用開始(13t)
　　「有機農業を促進するための栽培管理に関する協定」認可

有機農業推進で重視したこと

1. 誰をリーディングプレーヤーとするか
2. どこの農地で推進するか
3. 関係機関等との連携をどうするか。県・市・JA
4. 販路をどうするか
5. 個々の農家の営農形態
6. 耕畜連携・地力増進作物の導入推進

《給食概要》

・給食センター2 カ所、・学校数 小学校 11 校、中学校 4 校　・調理数 2,700 食/日

令和１０年度の目標

・野菜：出来うる限り　米：有機米 100%コシヒカリ 32t　加工品：味噌、豆腐、醤油、パン、麺等

- 有機農業の推進には販売戦略が重要
- 有機農産物の産地化には県内市町村がまとまることが重要
- 常陸大宮市が短期間で有機農業を推進できたのは、JA と強く一体となり取組むことができ、農家間の調整や販売先の確保ができたからである。

3.　視察所感

【木更津市】

有機農業だけではなく、オーガニックなまちづくりを推進しており、その中に有機農業も入っている。市全体がオーガニックの意識が高まることによって、有機農業も推進され、学校給食でも使用頻度が増加している。浜田市においてもオーガニックビレッジ宣言をしているので、それを活かしたまちづくりが推進できると良いと感じた。

【常陸大宮市】

有機給食は現市長の強い思いで実現しており、そこから着実に有機農業の推進が進んでいる。JA や市職員、農家も一体となり進んでいるという印象があった。強い思いがあれば有機農業の推進、有機給食の推進は可能である。浜田市においてもぜひ進めていきたいと勇気をいただいた。